『多摩丘陵産 マメザクラ×エドヒガン雑種群 近似種の検索表』

Ⅰ．花は半開（受け咲き）．がく筒（花托筒）は通常濃紅色．萼片は長三角形で内曲，ほぼ全縁．
花柱の毛は多い（10 本以上）．開花ピークは４月上旬．
葉の重鋸歯は規則正しい欠刻とはならず，先端は鋭く尖る．・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・タマノホシザクラ

Ⅰ．花は全開．がく筒（花托筒）は緑色～赤色．萼片は卵状楕円形～卵形，鋸歯または縁毛がある．
花柱の毛は少ない（１～10 本）か無毛．

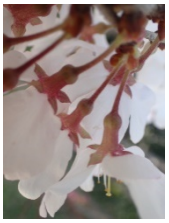
Ⅱ．がく片は卵形で明瞭な鋸歯がある．

Ⅲ．がく片は卵形で基部がくびれ，鋭い鋸歯がある．花柄の毛は開出．
花柱基部に通常少数の毛（１～数本）がある．開花のピークは３月下旬，野生種．
がく筒（花托筒）は筒形だが基部はやや膨らむ．花筒部は花径に比べて短い．
葉の欠刻状重鋸歯はやや不規則で先端は鋭い．・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　ヤブザクラ

Ⅲ．がく片は三角～五角形状卵形で，低い鋸歯がある．花柄の毛は斜上または伏す．
花柱基部は通常無毛．花筒部は花径より長いか同長，がく筒（花托筒）はやや壺形になる．
開花のピークは３月中旬，基本的には栽培種，まれに逸出．
葉縁は浅い重鋸歯で，先端は短く尖る．・・・コヒガンザクラ

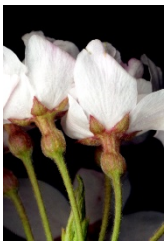
Ⅱ．がく片は卵状楕円形で，鋸歯はないか，あっても少数で目立たない．まれに縁毛がある．
花柱基部は通常無毛．開花のピークは３月中～下旬．
葉縁は規則的な欠刻状重鋸歯　・・・マメザクラ

●コヒガンザクラ：*Cerasus subhirtella* マメザクラとエドヒガンとの種間雑種で江戸時代から各地で栽培されている園芸品種．基本的に栽培種だが古くから植栽され，野生化しているものも見る．早咲き性で３月中旬に開花し，花付きが非常に良い．葉は片親のエドヒガンによく似る．有名な高遠のコヒガンは，キンキマメザクラとエドヒガンの交雑から生じたコシノヒガンと呼ばれる別品種であるという．



●ヤブザクラ： *Cerasus hisauchiana* コヒガンと同じ，エドヒガンとマメザクラを両親として生まれた雑種起源の野生種とされるが．花の直径が両親種より大きくなるなど両親種と異なる部分が少なくない．関東・中部地方の丘陵地から低山に分布する．

●タマノホシザクラ：*Cerasus tama-clivorum* ヤブザクラと同じ，エドヒガンとマメザクラを両親とする雑種起源の野生種．ヤブザクラの研究中に見つかり，2004 年に新種として発表された．葉は大きく，蜜腺も大．鋸歯の基部と頂部の途中に縁毛が生える点は，非開花期におけるヤブザクラとの重要な区別点である．ヤブザクラに比べて花色が濃く，がくも濃紅色となる場合が多い．現在のところ，町田市，八王子市，多摩市のみに産する．

●マメザクラ：*Cerasus incisa* 富士箱根火山帯を中心とするフォッサマグナ地域に分布する低木～小高木状の桜．多摩丘陵では３月中旬に咲き出し，ヒガンザクラと呼ぶ地域もある．常に低木状．各形質にもっとも変化が多い．

●エドヒガン： *Cerasus spachiana* 本州以西の山地に生える高木性の桜．ソメイヨシノの片親としても知られる．長命で各地に巨木や名木が知られるが，東京都域における野生種は絶滅危惧種となり，西部山地でも滅多に見られない．葉はやや乱れた重鋸歯となり，がく筒（花托筒）は壺形で基部は球状に膨らむ．多摩丘陵でも現在では植栽種しか見ることはできないが，ヤブザクラやタマノホシザクラの存在から，古い時代にこの地域に同所的に分布していたことが推測される．